

成形圖說

農事部

一

農書
省務商農
書圖和
號五二九第
冊〇共

太政官文庫
和書門
八二九
三〇冊架函號類

內閣文庫
和書
八二九
三〇冊架函號類

內閣文庫	
番號	和 8192
冊數	30 (1)
函號	196 102

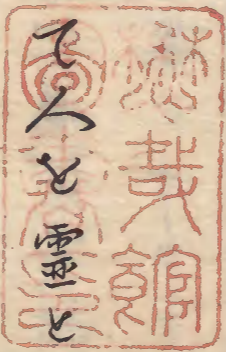
典故



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

成形圖說提要

凡天地の物と生じ形と成るとの、中子
を其人を養ふとの、最切要ふると穀帛とし菜肉とし



藥物とし故に樹藝の道と教るあり先あるはなしと
れども六合の大なる山海の廣き生じるとこ路の物

目撃する事ありて其名實を詳しとる子

あざざせは孰れよく古今に称呼し通じ南北の動植と

辨しと其性味の能否を志し事と知んやこ色本草名物

の學因る起るとる路あり吾

太公偃聽の曰民を教つて農桑と初め更に桑園署と設

成形圖說提要

けて度く有用の薬種と致し来し其產地表異同と審み
し其時候の先後と考ぐへおのく其ものとして生成の
功と遂志むる事と好むおわらば天意も人の民事を
急みし終ふらゆ急かり又園庭も試み植るとる此草
卉樊籠も馴養ふとる海鳥羽毛も海船の傳ふるとこ
迄のものに至るまで得るも志すがいそ其真を寫し
めて以て他日の用と俟つじらし深江補仁の和名本
を撰し源順の和名類聚鈔と集めしありこのうら薬録
方書の作世と経て絶えど近世福若水の草に及びて
緒の述漸く要志く遂におれども専門の業とするも

のあり志られども唐山和蘭等此地も出る物ハ
本邦此称谓と同じうらばこれとてられも充てざるも
素より當らざるものあり我も有りて彼も有り彼も
ありて我もあらざるもまゝ少くうらば我と彼ととも
に有りて其名と志れども其物を志さざる有り彼も
有りて我もあらずとも似るものにて強て充てむるも
実相乖ふて其弊恐らくは人とそこふひ物をやぶるも
至るものあらん吾
太公深くくくも憂へて 臣曾 樂臣 白尾 國柱 等の数人
命じて大も品物を索めてこれと類聚せしむるも

於て嘗て真と寫して花の流ふところありそ地の同嗜
しるものかいさるまで收入して部と分ち殊域の産ハ
蕃籍の圖載ハ臨摹し每品おのく其説と著ハと書成て
一百巻題して成形圖説と名づく今これと梓ハ浸バめ
て藩中ハ布く是童蒙といへども九穀の種獲採収及
び百薬の粹戾良毒を分別して救餓濟急の法方と志ら
志じ事と欲するのこ是吾
太公人を愛くし民と憫むの盛意ありて此篇の第一
義あり

一各物の書多くハ波と称して雅名とし我と呼下俗称と

と名義倒置といふべし世既ハ其辨あり今此篇ハ我と
先みして波と後とと志くれが我の名物ハ古言に西
じ俗語ハ達せざれば其義と曉し加ふ國史家牒
ハ載て其根拠あるものハ各條ハ書目と標し又竊ハ私
案と記して意義を訓釋と其源委の檢閲ハ略なく其偽
の疑似ハ涉るとの如姑く闕て以て後と後ハ其名と志
らげといへども其功用の著るものハ方言俚語と
とて表出ハ我ハ育せざるものは漢名と以てし蕃語と
以てし其蕃語ハ係るとのハ 臣堀愛生等が譯するところ
を登載と

一いふしゝの名称ふ國音とて行ハき後々多クハ字
音子愛と故ハ古今の称呼雅俗お混じり色の甚くあり
らど鶴鴿を仁波久奈布利と叫ぶハ古の雅名にしてこ
まを伊志多々伎と叫び又轉じて字音マ叫ぶガゴトコ
ハ別後の俗稱あり梅と字米といひ馬と字麻といふも
古言にして半米半麻といふハ今言あり又骨蓬ハ加波
保禰あり後に川骨の字と填わしあり竟ハ字音マ叫び
漢語ハ監造芝蘭春菊仙翁花九蓋艸の類ハもどあり如
名ありて亦漢語に類と又桔梗キキョウ芝シ苑エン胡蝶コテフ芭蕉バセウの屬ハ漢
音と轉じて其讀和語に似たり或ハ海松と字美麻通と

稱ヒ蛇牀と反備年志呂と稱するハ是を文字讀といひ
あるひを女郎ヲミナヘシ花神ナノリ馬藻のどと記名是を義訓といふ或
ハ玉蜀黍タウキと唐黍タウキと叫びタウキ越タウキと叫ぶハ方言の訛
響ありサカキ ツキキタヒス シギ カツラ字ハ二合して義と取ものか
也且正名といへどと世人通しておきくざばそのはお
のおのそ俗に從ひ毎字訓譯と添くそ糧碎と傳りらば
凡物に名づく大抵其像貌性味利用時節等も縁あり
又唐音韓語梵音蕃語とて行々ものありりくのご
とくあるハ皆其款下も附注と
一凡 藩中といへどと南北の風氣回らば水土亦隨て

異あり故に其耕種時令並材利用の程一定ありて況や
各國の制都鄙の俗これと四方に諮詢し旁通曲成して
以て達さばとつて斯篇の考らとを所みりて
疎漏と評することあり

一和漢引書の例ハ古今異論なく通知し易きとのを
其確證一條と出して繁引重贅を種別區別に至て
ハ同見を以てく裏集を古今とわたり衆議の帰定せし
るものも漫りて識やん草木の類ハ姑く程順則が質問
の説と好きて旁ら中山に程順則といふ所のり字以
産みのころまで度く探りて名実當否のいまざ審から
ざるものありませバその花腊葉貼あるのハ根実と曝乾し

且其真と寫し生熟時候と記し唐山五市の徒子託して
彼地の巨儒高賢の變志の疑と其答簡に取付後ま
に此の倣ひ志を継ぐ者ありて遂長崎に來れる清高の
俗稱とを擇み載るのを偶異論ありて後の考に依ふべ
きものありませバ纂録して達さば固より荒唐無稽に
係るものハ措てらる凡群籍中に引用せし書を先其
本書と引て後其書名を引きたと一也和名本中に兼名
苑と引太平御覧に范氏計然を引といふの類是あり唯
本草に引用せし書ハ本草の目を省くのとのおくを同
條に足えざるがあら

一凡品物を風土の寒燠地勢の燥湿を志し以て性の厚

薄味の濃淡おのづから新くくはる地道と好むとの
 と擇ひ用れを效驗殊々多し其主療のごと記る本草に
 載るとこ既詳あり志られども多くハ一定の説お
 し今これと裁擇するに違はるべし和漢の書に選用する
 とこ此の單方のごと記るおのく其君藥の條下に記し
 み植生の幹葉花實含靈の鱗甲骨肉の一體にして其稱
 呼を分ち割柔緩急用と殊々一補泄寒温能を異にする
 ものハ一條中に分釋せり志られども各條皆これあり
 小ハあり
 文化元年甲子十一月朔且

臣曾槃謹記

成形圖說卷之一

目錄

- ナリハヒ 農業
- ウガミタマ 農神
- アモノムネキミ 農師
- オホシタカラ 農夫

成形圖說卷之一

農事部 農桑 大意

欽テ惟フ小

太祖オホミヤ天地アミツチの国クニ

して極ミタラ試タテ立

二靈フタハシラ復メ陽ヲの

體カタして教ヲシと定サダメむ

臨シむひて天津アマツヒ日嗣ヒツギ乃疆キハナリなく

紹イロ統シロして御ミ神カミ始メセて天アメグ下ノ君ミコ

を造ヨソむ

ととトかカこコ其ソノ人物ヒトモノと母ハハと忠チカ貞ニ五穀イハヒノと今イマ良ヨシ茂シと

異邦イハナもはハむムぐグまマさサりリはハまマ改カとト奉ホウ事ジみミと天アメ皇ミコ一ヒトと

皇天スメラミコトの理コトワリを奉ホウ順ジュンむムひヒくク私シ己ミよヨあアるルふフとトなナくク天アメ国クニと治シ

むム乃ノ道ミチをヲ是コトはハ祭マツリより大オホなるルハハなナきキと周ユく

成形圖說卷之一

其名とおれじり寸宗は皇祖の始て斯国と授る形
民と生むい恩頼は報ひ奉るの道行る軍かくて道
ハ教誨りて立教ハ書よ由て成乃りあまは人君乃
國と治め民と安んぬ此政ハ必と衣その食その急
とハと分るめり志う可也ハ農と桑とはそくの先務
かして祭政の大存也といふ也古者天照大神天
位不臨御群元と統統むつる初子皇弟は治して先農保
食神耕播の方と觀察玉いしそ記述形體に就て農
業示されし言子謂保食神乃頂子牛馬生を宇と
宇麻とハ並美しとの稱して二者ハ農と助乃尤者る也

ハ最初とぞ譽る是より頂ハ地おしそハ高き畜よ山野
と以次又謂顛は粟生る眉上は蠶生る眼中は糝生る腹
中不穰生る復は麥及大豆小豆生る也顛ハ日當也粟ハ
高御壇燥とらるる宜し眉上ハ向陽の山は象は蠶ハ是
山蠶おしそ暖氣を好むと喜む眉齒河回し養よ桑とて
次桑は食葉する眼ハ日と火と得て明なり糝ハ夏日乃
炎陽は茂その身を腹ハ原と河おれし廣く平に飲食の
存あり稲ハ土と水と平に熟る田に植るとして復は菰
溼の地は礫と麥大小豆宜しとてそを於是粟糝
麥豆といふ陸種と稲といふ水種と又口の裏に菰

成形圖說卷之一

と舎シヤの糸繰イトクと織オリをり夫人の世ヨメノヨに在アる衣イき履フキて
會モウふ固コト毎トてハ何ナニも産ウるは是コノより前サキに
既スに稚産ワカマスビ靈ミコトとて五穀ゴコクと生ナすぬ蠶桑サカバノと也ナすぬめ玉タマ屋ヤ
見ミたりまじとそ苗根ナヘに肥瘿ワチカヒを繭絲イトと編織ヲサメオルと善ヨク也
可カ 大神オホカミはれを術マカと民タチに布告シキコトて之コノを裁ハシメ成ナシふ
とはええしるも五穀ゴコクハ人の飢渴ウツカキと救タメふ繭絲イトハ人の温アツキ
涼サマシ子猪牛馬カハハ人の力役ワカハレに代カふ保食神ウツレハ生ナるがごと
て能ヨク稼穡ナリハヒの方ミチを知シるは方カタに體タテマテ禮レ儀ギのさ由ユと
曲言マラナイ一イツる所謂イハユル天人アメヒトの道ミチと合アハする乃ナおもふ 大神オホカミ其
然シカレと云イハふ一イツめ一イツめ特トクに天使ミツカシと遣ツカハす方カタと求モトめ其コノ物モノ

伊奘諾尊

と獲エセふぬむの親ミタマと農殖タツクリと猷謀イハヒラヒ又躬齋服ミツクライヌモノと絰織オウレメ玉タマへ
里是蓋我ミナモト 皇国農桑ミナモトの原ハジメかして王道オホミチの始ハジメなり於戲アノ
人ハ食ケとちりて天アメと使食ツカハシは人生ニギハヤヒの命イハヒかして国クニの国クニ
何ナニ所以ソノ其是コノより大オホなるものれ一今夫民イハユルに四等ヨウ有り謂イハユル
士農シノノと工商コウカウの四ヨウの民タチハ一イツに職シヤクに急オシメり或シカレハ四乃ヨウ
民タチにあらざるものを遊食民ユウシキタチと使ツカハシ成ナシ君主ハキミかして其コノ祭マツリ以ヨリ
急オシメり官吏ツカサかして其事務コトノトメに急オシメりて四民シヨクと治ツカサるは
何ナニもざるは亦オホおれ一而オホして急オシメる者タチ唯タ之コノと生ナる下シモよの
之コノ責セメて其上シメに責セメるは上ウヘ愈シメ逆サカシより下シモ愈シメ劣ワカシ
劣ワカシあるも以ヨリて劣ワカシあると責セメると其コノ命イハヒに劣ワカシむと云イハふ而シカレ

成形圖說卷之一

四

農夫の稼穡タツクリはおもろオモロ未嘗イダカフて寧慮ヤスキを違イヒマへ居屋イハヤハ風
 日ヒと蔽シノカぎ衣糧キモノカテハ凍餒ツユヒユヒと免ニメまじ力役クヤク税課ウシヤツ歳トシ々トシ倍ニシ日ヒ々ヒ
 且暮ミダク子コ使ツキ來キて督責セメ嚴役ハタルかカ農夫ノハ急備オコシラく歎ホウ
 といトはハ又マ士大夫シみメて各其職シ掌サふサ意イ里リ
 尸位カヒナク素餐イタラクしシりリ農夫ノもモ如シカくクいイつツぢヂや
 故コ子コ凡ソ一日ヒ食シババ當マ又マ一日ヒ乃ハ行ユりリるル愈イ々々尙イとト一日ヒ此コ行ユ
 なナきキふフハハ敢アてテ安ヤスシしシ食シふフ理コトワリなるル國クニニニ遊ユ食シ衆シユをヲまマ
 ばバ米粒コメ耗ヘリ費ツヒえエ上ウノノ多オゴリ後ゴとト好ツカヒめメばバ用度ツカヒ匱カ乏ト一ヒト況カやヤ水旱
 疾疫コモク交イふフとト暴征イタ横賦イタ迭オコるルとト草野ホトトト愕然トとト
 てテ迅雷イタとト戴イタぐグとト四シ方フニニ散チ之シめメのノ幾禁ホトトトぐグとト五穀イ

之亦コト從ユウて播ホをヲ種タネくクはハ是コトもモ玉タマとト國クニ本ホ立タべベ何ナニのノ地チもモり
 禮義レイギとト正シ決ケツをヲりリ抑ヨ又マ早乾ソバ水溢ミヅのノ災サイ異イ何ナニとトんンふフハハ君キミ
 王オウをヲくクんン人ニ肅然ソクゼンとトてテ自省ミタカ内修ウチをヲ天アメ愛ミをヲ答コタへヘ玉タマとト守モリ
 ハ何ナニをヲ種タネくクはハ禁イヒ中ノハハ神カミ殿ノ子コ先農サキノウをヲ配享ハクシヤウらラまマ且カハハ有アル
 年トシとト祈イノりリ凶イヘ災サイ御ミをヲ玉タマとト其ソノ史シをヲ載ノセらラまマ此コト
 先王サキノウ烈聖レイセイ天アメとト敬オホシいイ農ノウとト重オホしシまマ乃ハ感意カンイをヲ出デてテ存ゾすス
 報ウいイ民タチとト郵ユウのノ王法オホシをヲ阿アくクさサふフハハ中葉ナカエフよヨるルとト異端イヘン遊ユ
 説セツのノ徒漸トくク天下テンカをヲ編アくク民タチのノ業ノ一ヒト歩フといト筆フデてテ上下ジョウゲ利リ歎トと
 競キョウ争ソウしシ善相公ゼンサウキウのノ言コトをヲ我ガ朝家テウカ神明シノミ統トウとト傳ツタへヘ天陝テンケン疆キヤウ
 とト開ヒきキ土壤膏腴ツツノ人民ジン慶富ケイフふフ故コトにニ東トウハハ肅慎ソクシンとト平ヘイぶブ北

ハ高麗成條一西新羅と虜トクハ一南吳會と臣コトト一三韓西
蕃ホリと称して内属一唐宋の使譯コトニ於是財と納秦漢華胄こ
れが為し帰化を志する所以と原ユエハ國俗敦龐民風忠
厚ハ一々賦税と輕カク一徵役と薄一上ハ仁と垂て天下賦
收コシテハ下ハ誠と處て上と戴イタき一國の政務一身と治るが
こと一故ハ范史君子の國と稱し隋帝日出の尊と推し
其後ミツリコト政急僭オコタリ風化漸く衰へ取彼去此淳樸益散ぬ其
始ハジ也 欽明の時佛法初て中土チウトいふ 推古以後
はサカシお嫌サカシふして上ハ羣公卿士より下ハ諸國黔黎シヤクにおよ
ぶコソまて舉コソて資産と碩タカケて浮苗と興造一競キンく田園と捨く

佛地ハツに授し耕夫と放く寺奴テに充り天平アに到て弥チ以爲
彫シせしれ逆サカシに三寶の奴と称ナしつゝチまわ其堂宇の崇麗タカキ
土功の繁シゲキ穴賦レ斂助役此とて煩重く靈山巨材此が為
まムナレ空ムナレ瓦く天下の半は過く之は隔コニて是山澤の氣枯
渴ツキ土金の精傷耗ソコナヘリて年穀成て其実少く人生ウシレく其才ノカ既尽
ぶ寸差ハツに工高僧僧ハ耕人アより多し又浮浪妓倡ハ工
高サハより多し多し夫は天蓋人なるが故ノに女を辱ハて原湯ノと
壑タヒラキ開江海と埋展ウメヒロヤて程タラハヒと衣食乃給足ツとるも卒ツに漸浸の
弊ツヒエ不返の禍ウチヒと馴致ツ一威權下ツに移て武人吞吐ツ一保建ツ庶
文の潤オシに洎オシで天下の喪乱極キハまり痛ツしうツどツ也然ツとい

應じし今古と以て態と殊りや、或感表と以て其則と焉
ど爰に承平百年再び七五の運に復り、世劍徳に帰し時
文明に属せり、蓋進雄尊神孫の爲に天下を強濟し力と
竭して播殖を以て其後て果する所苟も以てり、りて四
方金浪の貢諸蕃の互市と祈る毎年西肥に輻湊せり、是
實に六合每雙の域五穀豐饒の土とつる處一乃是
祖宗極と立て教と定、天子奉りて以て治め、而小姓及よ
して其徳の威なる其業の大なる固より之と歌頌し著
し之と金石に勒し、志と錢符ぶりの亦茲に在らざるや
今吾、南山侯方に宗社と敬い、特り農桑と勸し、まふ其

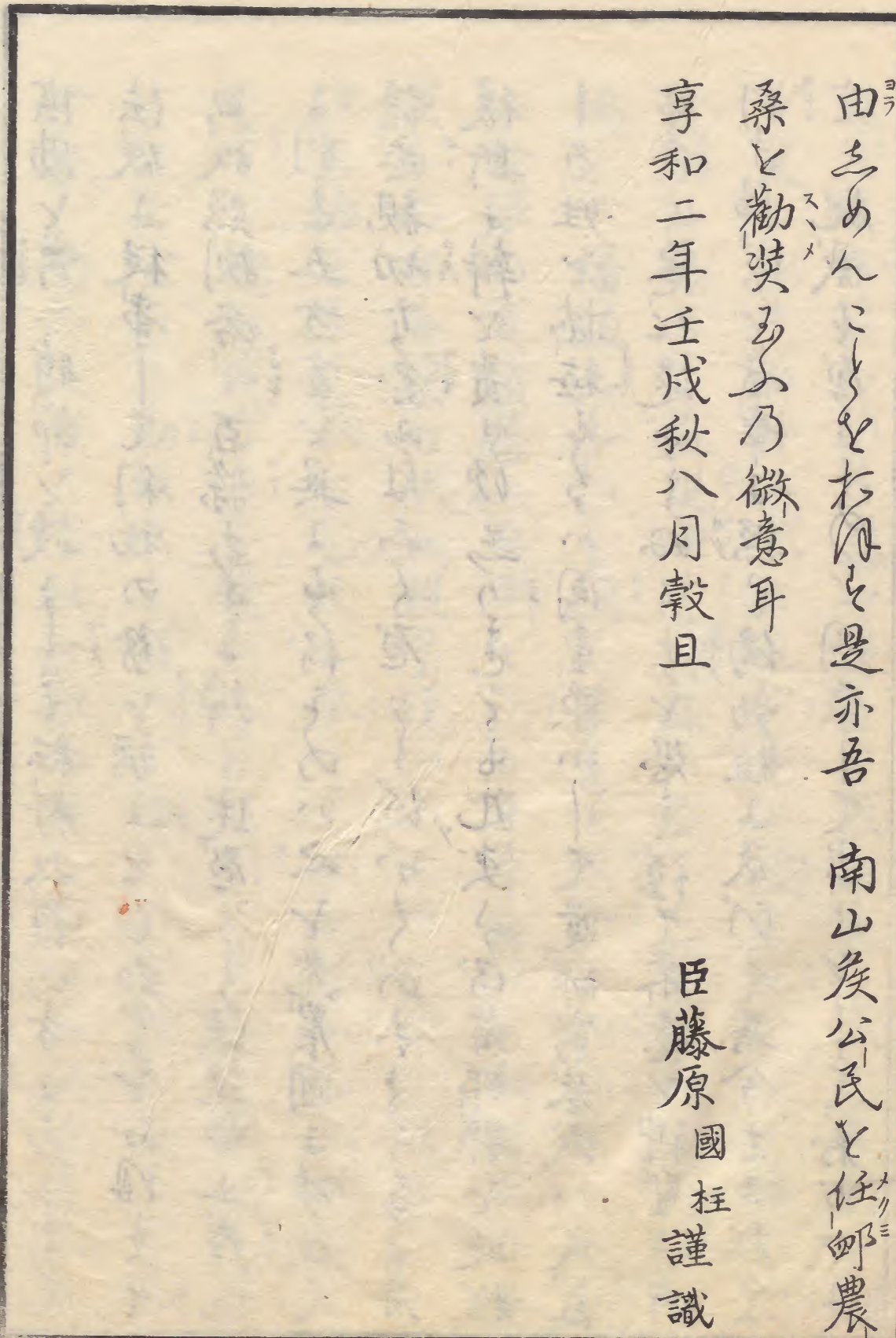
侯陽と考へ、時節と授り、るを耘耔収獲の方よむるまで
法故に従事して利物の務と明し、せむおやとおほし、其
典故照例各、百條あり、彈く述べ、り、況や土産區
に別し、五方宜と異し、もふそのハ之と先農圃に咨詢て
諳悉親切なる、あはれ、く危り、り、げ、か、く、の、お、く、る、者
復斯に辨と費、は、は、り、ま、ど、も、凡、ま、く、ふ、者、郡、縣、と、巡、檢
し、百姓と接、接、も、ら、ハ、固、重、事、か、り、て、邊、鄙、窮、乏、或、ハ、文、教
に、孝、く、惠、化、速、ざ、ぬ、こ、と、と、恐、ま、謹、て、來、意、と、神、聖、に、存
け、き、歸、寧、と、舊、章、に、探、り、傷、勅、植、に、及、び、く、其、今、右、に、在、て
宜く觀、識、を、應、じ、その、と、圖、象、し、て、出、る、と、し、て、美、が、一、よ

由^{ヨラ}之めんことと^{ス、メ}お月と是亦吾 南山彦公民と任^メ郵農

桑と勸^{ス、メ}奨ふ乃微意耳

享和二年壬戌秋八月穀且

臣藤原國柱謹識



奈利波比 書紀○書紀即大日本書紀多以下書紀と云者

利波比 皆倣此○奈利波比ハ凡國史農と云業と云亦奈

人具業と訓め又稼穡耕種と訓と因うといのハ生

波比ハ種波比幸波比かどの波比乃おとし○凡書紀

万葉等ノ田莊田宅田家の字並子奈利登古呂と訓田

とも奈利とつハ田ハ物の生地な是地凡木の實な

ふ菜の根なふとつハ都て実と結び根の着るきぐいと

生産とつ俗ナ物成といつ亦この意なり

農 書洪範農用八政註農者所以厚生也○周禮以九職任

關土植穀曰農又厲山氏有子曰農能植百穀後世因名耕

毗為農左傳注種曰農斂曰穡今按稼穡のおと令ていハ

は即農

蕃名アツケルウエルキ

古者 伊奘氏天地と部分して人倫此理と賛育し夫と

成形圖說卷之一 八

なる婦と行を教學の原と啟発し於是天が下の君を
と定めて斯邦と號して千五百秋瑞穂國と宣ふと既に
天造草昧御代よりは千五百秋ハ國祚永久の義
千秋萬歳と云ふごとく秋ハ百穀熟ふの時めて瑞穂
ハ稲穂のまづくくを又磁登潤饒りりとも又火と
其訓かふるを天地一大環は只水火のふりりありて統
括相生を仰其大存ハ一日神は歸着の大道ありて
何なるもは斯國とば後ハ大日本と文字ハ填られり
夫土地何れハ人民何れハ人民あはれ君臣父子の道あり
なり君臣父子の道ありとも百の種津物ふられハつく

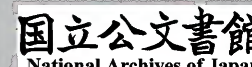
物と生一國とならむこと何れもは物と生一國とならむと
と其物給一賜とば民と命は續ぎ生と解一が
故に千五百秋といひ瑞穂の國と號むといふことなりや
七聖の御代より出く美事と鑿たもといふ其勅のまゝに天
津日嗣の天地と隆まらぬといふ稲種殊子今もむふま
他くは勝きて美事と神世に深記所由ありり
と滅ぶ事ふるかとも人の世とわづはむ業はいつま
うたの義証おろかりやはかりな是 祖宗國と
治め民と安し給ふは穀種豊饒と先より人と善い物出
生らるるとも君を尊ぶの任とふし給ふ世の貴きこと也

よ過ぎるハ何ゾ致屋一有職傳曰有土則有人人者以
 衣食住之三而立焉 二神降居磯馭盧島化成八尋之殿
 居處之設於是立焉其其次子稚産靈神と生々蠶桑と五
 穀ととふせりとせり一五穀乃名初くありと聞え一
 なり又饑飢ふ時子倉稻魂命と生活い一とありおとほ
 いふしつと年子豊凶阿たたえ一みく其凶歳子多し
 て萬民地饑也即我身の饑りを才子切おぼしめす
 の御心なりゆゑ子己ふとと饑もろごとく從く民と救
 い災子備へ給ふ此御心と下されしとつふお世夫天下
 の饑と自饑ふととるされし其親切著明なると見せし

按よ飢饉と守惠宇々云種藝とと守惠宇々云本
 があし種事とふやと受吾 邦天然の言詞訓義の妙也
 之よ次でハ 日の神天ヶ下と志路一災と路は月夜見
 尊と天使として保食神の農業と見聞は世まこと何
 月夜見尊ハ即素盞鳴尊の御事とゆえり天子に亞て
 國此宰政と主まると大節大任の重き御事なりと云人と
 もく農れりと検察仰付らむとと政道の第一となふ衣
 食の本源なむと小官と委任し治まざる醒るると世見
 え事と今西州の俗中秋の望月今年の新穀新葉と一箕
 里菴太右の遺志うふ素盞鳴尊公田とせりとあり
 風なりと云の状ありくもゆせり日神とありと云

怒^{イカ}り^ハけ^ハく^ハ盤^{イハト}戸^トさ^シて引^キ籠^カら^シめ^テけ^レい^ルか^ドも^ノ天^カが
下^{トコ}常^{ヤミ}暗^{ヤミ}と^ナり^テは^レ此^ノ時^ノの^事も^人あ^らず^も是^レ素
尊^ス宗^ノ廟^ヲも^供給^ス一^ニ人^民と^生育^シ給^ハふ^大節^ノの^田地^と何^レ
一^ニ荒^フ暴^スの^御志^ヲも^たら^ずに^はお^ぎや^つつ^ニに^をま^せ
給^ハい^テ天^ノ位^と懸^{サケ}臨^メ物^と瘵^{ステ}給^ハふ^もむ^まり^是あ^りて^田農^ノの
こ^と愈^{イヨク}大^ニ切^リ多^クな^らば^おろ^たる^一途^ニも^素尊^ヲと^して
出^イ雲^ノの^因も^さも^らつ^つ日^ノ神^再い^テ天^ノ下^ノを^治理^シ給^ハし^き
そ^ノ皇^身の^親御^りく^つま^じり^テ天^下の^生民^と畜^{マシ}ハ^ル祭^ノ祀^ニ
薦^スつ^たま^し田^ノ穀^と傷^{ソコメ}給^ハふ^ゆ急^ニ私^ノ恩^とも^く公^ノ義^とも^差違^ヒ給^ハし^き
も^守此^等七^五此^レ聖^代民^と惠^{カミ}給^ハふ^こと^只我^子と^し弟^と

も^志給^ハい^あら^ずど^に下^ノ民^を亦^父と^し母^とと^し上^とと^戴
冠^ヲ給^ハふ^け不^是蓋^祖宗^人心^と固^結ら^ること^牛滂^ニ及^ス
い^皇基^と肇^始し^て盤^石も^志給^ハふ^所以^にあ^りり^の德^澤隆^ニ
厚^{なる}故^に志^給ふ^金一^{され}ば^古ハ^男ハ^耕一^女ハ^織る^{こと}
給^ハし^て日^用此^レ行^事と^やり^天照^大神^ハ日^位の^尊も^居
て^神衣^以織^ためて^天神^ニ献^ス神^農氏^ハ躬^耒耜^と作^り
民^子を^おし^せら^るる^一竟^乃舜^と試^んん^として^子九^男二^女
と^して^畎畝^ノ中^ニ事^すつ^つ志^給ふ^れ一^が後^世
も^あら^ず之^と觀^し帝^王の^子女^も一^農夫^ノ家^も仕^給
え^んこ^とあ^らず^もお^ろた^るか^え蓋^太右^ノの^事ハ^天地^ノ



間相去未遠^トとも見えたるもかゝるにさふらむとふ君ハ九重
の雲の上ニ任^ス治へどと辛苦艱難と忘まむば民間のこ
と誠志^シ治へのすこと吾身の疾痛^ヲも切^キなまばい治
まの君ハ稼穡の業と専一^ニ勸め治はざるされば此等
此こと誠治むも厚手^モ百乃官^ソと敷置^キおとばふとい
かときハ士^ナなるもくも何ぞ人^トと治るものハ人^ニや
かとも乃理^ヲなれ其民と品第して物部^モ田部^ベ工部^ベ服
部^トふと見えハ是今の士農工商といふがごとく志々
かに世降^リ俗^ス澆^ラらむとより其君主^トさる人ハつよ及
むと而の官^ニ拜^ラまむかどの人多^ク冬父^ハ牝^ハ鷹^ハ襲^ハ阿

らざむとバ貴富の子弟^ハハ未曾^ク稼穡乃艱難と志る
おとなく恒^ニ宴逸ととく意氣と張^リ家^トと肥^コ朝^ト子^ホ夸
るをもて生涯の世樂と相^トい遂^ニ葛燈籠とんは祖
宗と田舎の野翁と嘲^リ笑^ハよむと況^ハや勞^ヲと避^ク免^ラ
よ支^ルハ千萬人の情なまばおのこ士^トして人と治る
の職^ニ在^リ分^ク飽^マで田禄と受^ケ妻孥^ト育^ムの国息
と忘^ル稼穡の艱難と顧^ミず工商といふとそなを所^ニ庶
直^ラらむと工夫と費^スと傭價と高貴^ハハ亦稼穡の艱
難と顧^ミ故^ニ農と道^テ工商^ニ出^ルその多く或ハ農^ニ
入^ルそのと聞^クは水火の苦楚^ト被^レが如^ク忍^ミ忍^ミるを

虎狼と畏るオウルも似たる農ハ日子下里サト暮しそ且賤く平生
荒歉ケンにくろくみく終ハシ方樂土の地と志シくば一歩シび風冷シ
燻蝗カンクウの厄ヤクも尚ナカくハ牛馬と鬻ロサキく租チウに償ツクども尚ナカく守妻子
と質シりして金と賃カレともたらしも刃と致してこれオキを賒シど
とたナく守終ハシみ其田地と法却ハシし家と破里地と掃ハシく一年
の調庸アテも充て百歳の身と失ハシふも及ハシべりかくして幾イタクの
時と強ハシくも故郷コキョウも立帰タチカエるべき便ヨスガとなく或ハ心なきを
のハシらる毎頼ルモノも誘ロサキま耕作のことはいやもハシて後ハシをハシりて都
の栖居イキと面白ハシくと覺ハシえぬも果ハシハ市井イチニキも偏里オチイそ長
く浮浪ユドナシれ徒タとハシなることありさハシく其跡アトも残ハシりハシる田圃タハタハ

世と荒ハシくハシたまハシく其田ハシとうけハシるハシ作ハシまるハシもの
多ハシくハシとハシふハシかハシどハシもハシ浅ハシぬハシまハシばハシ土ハシかハシいハシ粥ハシならハシくハシの
つハシらハシるハシおハシろハシ地ハシりハシあハシくハシ假ハシ令ハシもハシ濟ハシくハシなハシぬハシまハシばハシ田ハシもハシみ
のハシりハシ少ハシくハシ粒ハシがハシちハシあハシくハシそハシ何ハシもハシぬハシまハシかくハシばハシうハシるハシなハシらハシもの
今年イシヒト幾イシヒト人イシヒト明年イシヒト幾イシヒト人イシヒト也イシヒト其年イシヒト積イシヒトりイシヒトてイシヒト一村イシヒトみイシヒトかイシヒトくイシヒトのイシヒトだイシヒトと
くハシ遊ハシもハシ一ハシ邑ハシもハシ及ハシいハシ邑ハシもハシ郡ハシもハシ及ハシいハシ上ハシ下ハシ舉ハシるハシ皆ハシ穢ハシ穢ハシ地ハシ
苦患アヒタと免ハシりハシまハシじハシきハシのハシみハシもハシらハシあハシもハシ只ハシ負ハシ乏ハシのハシ間ハシもハシたハシめハシら
いハシけハシくハシ利ハシ得ハシれハシまハシじハシきハシとハシ何ハシもハシぐハシらハシとハシさハシむハシらハシるハシのハシおハシとハシい
のハシこハシ出来ハシてハシいハシとハシあハシらハシるハシのハシよハシりハシ人ハシもハシ直ハシちハシならハシたハシ及ハシて
才ハシのハシ煩ハシ累ハシとハシ何ハシもハシかハシらハシふハシハハシ入ハシやハシどハシくハシあハシくハシはハシ於ハシてハシ民

の良心をホロおさぐ為ホロす喪ホロび士乃節操とこそホロが為ホロす失ホロひ
宰輔の大義とこそホロが為ホロすホロ七ホロの君主とこそホロが為ホロす天ホロの
代ホロく人とホロ貴ホロ子の道と治ホロ治ホロふこと何ホロをも守上下ホロあまぐ
惟ホロ利ホロをホロと務ホロむるの極ホロにホロつホロてホロ不ホロ慮ホロし夫ホロかくのホロおホロとく
涓ホロくホロの流ホロ沛ホロ然ホロとホロてホロ樂ホロくホロ慮ホロくホロとホロふホロとホロあるホロハ一ホロ物ホロ一
夕ホロのホロ間ホロはホロ何ホロとホロすホロとホロふホロ慮ホロきホロとホロとホロや

附言

兵農相分も文武二途とあるはと一ホロつホロるホロハ誰ホロとホロも
ぬホロるホロとホロなれホロとホロとホロおホロいホロまホロのホロおホロれホロハホロ何ホロとホロも
こホロのホロ異ホロなりホロとホロとホロ結ホロじホロきホロとホロふホロ慮ホロきホロ事ホロふホロめホロとホロ三ホロ宅ホロ觀ホロ瀾

曰彼以文立我以武立學者須先識此體制此語これ要旨
と得ホロきホロるホロとホロとホロふホロハ加ホロ茂ホロ真ホロ淵ホロ曰ホロ諸ホロ臣ホロとホロ文ホロ官ホロ武ホロ官ホロとホロ分
てホロ分ホロハホロ何ホロのホロ例ホロとホロ何ホロのホロ行ホロるホロ今ホロ條ホロふホロどホロのホロ時ホロとホロのホロさ
とホロふホロてホロおホロとホロめホロとホロみホロおホロめホロはホロきホロとホロ武ホロきホロ道ホロとホロとホロてホロ仕ホロ事ホロと
炎ホロめホロとホロてホロ既ホロにホロ今ホロのホロ定ホロめホロとホロ後ホロをホロ奈ホロ良ホロのホロ朝ホロとホロてホロはホロ猶
之ホロとホロ炎ホロめホロふホロおホロとホロ諸ホロ臣ホロとホロとホロとホロてホロとホロのホロふホロ乃ホロ八ホロ十ホロ伴ホロ緒ホロと
とホロ八ホロ十ホロ氏ホロとホロとホロよホロめホロとホロ歎ホロとホロとホロ多ホロめホロとホロ菅ホロ原ホロ俊ホロ仍ホロ曰ホロ竊ホロ替ホロ
皇和之古山水秀美五穀豐饒 神聖垂統政教畢備海
内以為自足不知復有他美也尚矣蓋有國是有土焉有土
是有人焉有人是有道焉孰國得不然亦自然而然者也迨

乎海路已開儒教釋典逐年入來猶水朝于東日出所照不
乏其人文字之學亦大行爲我 先王天地之量忘彼此之
疆廣容衆美以經綸乎國俗於是乎有體制法律加于前修
者淮南子所謂同不可以相成必待異而後成王符所謂攻
玉以石洗金以鹽浣布以灰洗錦以魚皆以異攻之而成其
美者也而規模之大瞻視之尊職掌區分曲有其制故不能
各恣私智儒釋百家之業並行而不相悖遂以至典章文物
之盛孝子義僕之頻出于民間萬國莫與比也如其義氣貫
日月壯心吞英雄拔山扛鼎之力驚神泣鬼之謀實獨步乎
宇宙間是以屹立于淼漫中勢如盤石兵雖有猛虎采頤沃

土之珍長鯨溺毒滔天之濤者然不能窺於我藩籬亦世界
通國所知也耳矣苟生斯 靈域者誰不自樂乎第已有異
方之學矣則不能莫異同之見也乃釋有兩部習合之妄作
爲儒有華彼夷我之非禮爲彼事彼我我於是以乎彼此之
分立焉乃始有國學目爲中葉以降武將握權翼戴 皇化
鎮制四夷乃又有武學目爲蓋非外乎文也以武人爲業也
夫道の文武何ぞ偏立をくべし 後醍醐の帝文武二途
かゝりて宣ひしこといみじく大日本史よき事されしと
宜かゝりてわさるばは又兵農の分まゝしあはれ乱まざる世
よ出〜ととらふよわいあ〜よ物部とや〜ハ今の

さもらひてふれり似て文武哉兼しありおハ武と貴れ
しれ文官武官といふと凡の諸臣を物部とありて物部
之八十伴男ふどハ其部属の長也又大伴大來目等の氏
人督将元戎内兵として奉仕せらばはら武事と以て
皇朝の守護みさもらひ也後の稱と以ていふは彼中
臣忌部五部ふどハ文官此大伴來目ふどハ武官也とあり
又農穡と業とせらと田部といふ工匠手組部といふ
布帛と高と服部といふ魚塩の利と通とせらと間部とい
ふがとせら諸物部に分ち稱へしは物部の名乃稱りて
後ハ物主物頭とともいふやこハ神の母ハ大物主

命軍將たりし亦號と大者持ともいふ是ハ大物主ふ
どとげつはまのかしられ稱と後りし縁ありき 百練抄
天皇曆仁元年二月十七日關東將 職原鈔曰侍者親王大
軍上洛可然大者一人不漏參洛 臣以下諸家恪勤之名也又五位六位の侍とも太平記ハ
ハ四品以下の平侍とも又源氏ハ殿上と稱してさふ
らひとるる侍所ふど是より出たりき中者まで
と禁廷の文番と勤ふ侍ハ奉所踐履侍と稱し一
段賞歿せられ或ハ奉國に飯了も京に候ひし者踐履
帯乃先生平山武者取ふど自稱るる 東鑑頼朝卿命曰京
都警衛勤厚御家人
等者其賞可超 令の時け諸國ハ軍團として武官とて武
過関東迄士
成形圖說卷之一
十六

事練習の者と撰て兵士とし兵士の申ふて京に奉らる
 と衛士とと流口士とといつり此等朝廷の守衛に侍と
 わて武士ととびらとらひと掾ふふとは出来ぬ古今集東
 歌に御待御傘とともうせ字城跡の本れ下家ハ雨よ海と
 是ハ按式ハ衛士とて擔夫もえらるゆふどろえ
 事ととを宗一に西唐の風とと移されける頃よりハ専ら
 ととく法兩軍固大毅小毅ととりの官員とともくうやせ
 兵士の輩久しく居るの下より崛起せしめて又朝廷交
 番の公卿とバ小番といひ此御より交番の物部とバ大
 番と云ふといふと何なり宣胤日記ふどそ次第はし追まじ世
 内々外扱の小番 鎮倉の頃までハ將軍家臣の事とバ郎
 衆候之といふ

等郎従ふといひて適ふは小侍の称ふといふ東鑑善波
 又次郎被
召加小侍
 依別仰也されバ士もまは民もまはれ京都に奉らる
 る者は本國に歸ると一等の官人の扱ふとてあしりり
 今此風儀吾南島に遺るは事どもあり凡農ハ其外之才
 養といひて士と為といふとも高貴ハ絶て士とたりあど
 成許されけらハ世の通法也西階の書も使工高不蓋
 得仕朝進官といひ
 王世の時君に事する者皆臣と稱を國造のむとて國御臣
 の謂ふして陪臣と家臣といひ遂に奴隸とハ臣といふ
 け亦上の服事とらるの通稱也高貴を以て高子といひ又
 轉して高来といひ中昔
 の物御ふとハ家臣と侍然も後來世の乳も遺て徳國
 と稱せしといふと見えぬ

の民庶兵畧は堪へ軍功を顯ししるの輩自替て侍と稱し
 一畝餘の民ハ農とのことなりて下穀の者といやめり
 是兵農相分るの勢なりと云物土ふてハ通鑿唐紀云得兵
 十三萬分隸諸衛更番上下兵農之分自是始矣とのあり

稲菟 書紀○倉稲菟稲菟稲靈等並云宇賀乃
 美多麻也又神武紀糧名爲嚴稲菟女
 屋船豐宇氣姫 古事 保食神 書紀○和名鈔下宇氣者食
 記 奉持よる乃神の義也保猶保持也と云え
 受穀食と奉持よる乃神の義也保猶保持也と云え
 今俗は傳習を受持と伝はれし稲荷訓棗曰保食神
 の腹中ハ生稲と云えて稲生の義也有ハいふとい
 ひ哉ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 御氣津神 狐神 祇書○或三 御田神 一名佐具慈即作神
 神祕書○或三 御田神 一名佐具慈即作神



夫本集
 光俊
 二月や
 初午
 稲菟
 倉の
 松ハ
 本門
 色
 帆し

彫工後田金六

田神祭歌

春田うり

夏田うり

秋の

おろり

田比

田比

田比

田比

田比



宮神亦三狐神と
おろり俗字ふり

農神詩話一田畷
以上左傳稷田正也

之長五穀衆多不可偏祭之
周禮設其社稷之壇而樹之

王註田神后土田正之所依也

禮祭法註
稷穀神也

蕃名未詳

謹按伊勢の外宮以豐受大神ともなる豊受ともなる義

と仰き知悉し此外宮の神事ども逸去る所を弁と云書よ諭しあり然ども豊受問答寶永十

條及駿河風土記ふどと併考大殿祭祝詞曰屋船豊宇氣

姫命是稻靈也夫我邦と瑞穂國と歸し豊秋津洲と

と稱ふは五穀豊饒と基本あるの理ふれども豊受とい
 て稲靈とハヤリくる 太祖元神斯國體と固有の
 千万歳の後子孫にまで國常子立せて神の道を行はせ侍
 るとくや益猶魂保食皆同徳の神とて稲魂ハ五穀の靈
 おして保食ハ先農の耕種と善らる者也是農神ハ稻魂
 のつとく先番ハ保食と似しる也 又后土と社神と此と
 いつるがごとく一洋と梅子稻荷ハ稻魂乃社跡にして山
 根田彦神と土御祖と
 戦國紀伊郡三峯と本社と云文徳實録ハ稻荷神三前と
 阿比本殿倉稻魂社 第二殿素戔鳴尊第三殿大市比賣
 也畿内志曰稻荷神祠山有上中下 諸神記曰 元明天皇
 三峯因號三峯稻荷或作飯成

和銅四年二月九日倉稻魂神始現于伊奈利山以長曆推
 之則其日當初午日今不用九日而以午日諸人參詣俗謂
 初午參○日次紀事曰二月初己午日稻荷社參俗稱初午
 詣又謂福參社家毛利氏調進新穀今日農民參詣特多門
 前家々賣百穀并雜菜之種子是 本朝衣食祖神宜乎尊
 崇之也又曰當月土用中農民擇吉日浸稻種於水若初午
 在土用中則必用其日也今梅子倉稻魂と二月子參する
 ハ當春既子農事と興はるの時あるがゆゑ子仲春の候小
 して新神と奉まつる也 和銅の頃より初午と用る
 初平祀の事久きより云々なり保隆國乃今皆物
 語にハヤリ 二殿乃はトメ午乃日ハ京中の老賤稻

荷浦うでとて河内まりありある年近備官の舎人
ども多うりり疾田重方が下野公助泰貞茨田為國
公友ふど解袋破子ほふどりて沙汰まき多うあり
乃卿社ちりきあつていりてしき女終あひたり
上着は紅梅萌葱るどかきよみ多うありぬめり
りり此舎人きとみと女木乃存よ立りりれりり
どもとりしきとて細いりりて女が形と足んと
中重方ハ存りりりりりりりりりりりりりりり
あると然らざるりりりりりりりりりりりりり
同紙作ると立ると海り返くまてお海屋りり相りり
如くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
るたのの海はんおときりりりりりりりりりりり
扱て敬つてりりりりりりりりりりりりりりりり
侍ととも志や頼ハ猿似て心ハ販婦りりりりりり
去るんとおりりりりりりりりりりりりりりりり
つききききききききききききききききききき
かくゆゆりりりりりりりりりりりりりりりりり
卿社乃神をきりりりりりりりりりりりりりりり
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
大也御前ハ寡子ておえすりりりりりりりりりり

つふふふ女みりりりりりりりりりりりりりりり
ば宮仕るどせんと思ひるりりりりりりりりりり
侍ととも志や頼ハ猿似て心ハ販婦りりりりりり
つふ也減子思ひりりりりりりりりりりりりりり
バ重方大は喜びとてりりりりりりりりりりりり
馬帽子と衣ありありありありありありありあり
せありありありありありありありありありあり
いりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
おにににににににににににににににににににに
と足とば我妻也重方吾御前ハ抱まくりりりりり
女腹と立て己ハ何とてりりりりりりりりりりり
回僚とりの此よくありありありありありありあり
程よハ何とてりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
つは今日りりりりりりりりりりりりりりりりり
卿社の御符とかがりりりりりりりりりりりりり
子乃りりりりりりりりりりりりりりりりりりり
稲荷子りりりりりりりりりりりりりりりりりり
わどどどどどどどどどどどどどどどどどどどど
あるありりりりりりりりりりりりりりりりりり

里大鼓と鳴ると多く見えたり
神笑語喧又王介甫詩は雖
非社且長聞鼓と作とす
又頭碎は雨雲のいありとつ
つらゆハ雲雨より稲のみのふとつ
又劍西の稲
三條古鍛冶宗近稲荷山の垣土とて鍛冶也
事あり又小鍛冶の徑ハ明神狐と現も相槌とあり
ふ刀匠の弟子とありて剣と造ふとと學ひたり
後京
るよりおのこ乃系と記しぬ
大日本史曰延元元年足
利尊氏反而偽納款
後醍醐天皇乃還自延曆寺御華山
院三條景繁奏曰云云帝夜蒙婦人衣使内侍齎三神器從
壞垣而出景繁擁帝上馬受荷神器與忠房親王俱從之時
夜深真暗咫尺不辨帝行望路傍隱然如有祠宇顧問之忠

房對曰是稻荷祠也因作歌曰野羽玉乃暗伎夜見路尔迷
布奈利朕尔假奈牟三乃燈為拜而過條有赤氣如炬起于
祠上照曜路上明如晝日隨光南行天明至穴生是聖天子
精液乃致しあふ所ふる魚
延喜三年藤原時平修造稻
荷三箇社製上中下三燈故
曰三燈東鑑文治二年頼朝卿修造稻荷社上中下正殿
拾遺集と平定文稻荷よまうてあひくはる女乃その
ツいけけのまをいへる侍らざるれば稲荷山
社のかごと人ともいふつるまきくとともいへる
又
古俗傳へいふ稲荷乃神狐とい使令とて按鎮座傳記曰
宇賀御免神亦名專女三狐神註三狐即御饌津也古ハ食
と介といひるも御食津ハ本稻荷神乃亦名小とて遂に
狐と介通といひ轉して伎通といふは
成形成圖說卷之一
二十二

又えり 神祇拾遺曰稻荷社勢如三狐の由縁より本
七社中一社の白狐と祀らる事陶原記に阿比陶原記
ハ強足公の記しある書に極く乃秘本也祐長記曰御
食津乃字或ハ三狐と作る如子附會白赤斑之三狐以稻
荷と稱するものハ保り又江戸王子稲荷と云ハ伊
斐諾尊の皇子事解之男と祀王子社ある如の名ど又
本朝俗諺志多々空海が東寺の前まで稲成斎つる籠
籠より稲成東寺の法事とせしむるなりハ東遊雜
東寺の傍ニ階長者が事と法事と傳く事なり
記曰出羽国羽黒山ハ祭神稻倉魂あり稲荷明神右を稲
熟して民家始て刈入日稲束と一段高く置て酒ぶど飯
つり家内の者集りて食と命と保りの恩と謝し又豊
年と祈りてする事とつづきの次より佛氏より怪談
と加へて諸人と惑し愚る者ハ稲荷ハ狐とおもひ居

ふあり然ども今も東都諸侯旗本の屋敷にも
稲荷の社ありて知行所の豊作と祈りてハは古乃
風俗乃遺りしものなり稲成と稱稲成をかく五穀の
靈神ふがゆ多々今諸州香華の盛をふ蓋亦所由
わふと云ふなり○崇神紀曰農者天下之大本也民所
特以生也以大田田根子為祭主仍定天社國社及神地神
戸於是五穀既成天下太平矣故稱謂御肇國天皇也
祭主大田田根子といふは乃田地年穀の事は
重られし御肇國と稱するなり大田田根子
氏錄初夏百首俊頼の歌に初苗ようど乃玉枝とあり
成形成圖說卷之一 二十三

つて五十籤シクシまのくじと一つくり紅ベニは傳ツトは田神祭の式
は五十籤シクシとて神酒ミヅも急イサぶとすかよ大豆マメ畑ウヅマキやて髻ウヅマキ華ハの
やうにむら也と一ハ翼津御年ツツノミトシとて稲の名也○田神祭
の初日支神代ウヂノシロは十町トウの田あり保食神ホクシノカミ乃ハゆり初ハジメ所
なり此田コノタ志シ一れありゆりゆき志シの末乃ノヘ末マまててはさ
るふささく御田ミタ神カミさればその十町トウの秋アキ乃ハたり穂
甚シく穂ホの長さナガサが一尺八寸許ヤチハチスンヨリなり其穂ミの稲イネ
米コメ多オホシれバ粒リのふささが一寸八分イツチハチブなり此米コノコメは飯イハ
かゞは天下テンカ萬民マンミンの命イハレと継ツグく酒サケは造ツクまは泉イハレと湧ワて不
老不死フシシ乃ハ菜ナとある餅モチはつけた祝イハレの家イハレのからんとある

是キコシと服ウヅマキめと人ヒトくハ友トモの目メと何ナニつくは冬フユの目メとさう
ら此田コノタの神カミ乃ハ皮膚イハダの皮カとく何ナニつくと包ツツミめとくこ
ころこれコレと我ワレと志シらむや十町トウと初ハジメと一町トウ田
の名ナはまがと一イツとて耕ウヅマキと妻ウヅマキの初ハジメより納ウヅマキる秋アキの夕
まが一粒イツリ万倍マンバイとさう神カミありと今日コンニチの大神オホミカガハラ樂ラカ 天照大
神アマテラスと初ハジメまの諸シロ神カミと初ハジメ清スガしとあり神具カミツグと供ツクし神酒ミヅとさ
ハ梁シロキとさとのへまう膏ウヅマキとさ初ハジメ申ウヅマキとさ初ハジメまがと御田ミタ
神カミと清スガとさして人ヒト若ワカきとのはかへとハ命イハレ土ツチ乃ハ人ヒトの命イハレ
と継ツグく田地チノチの奉ウヅマキ法ホウ志シれり其ソノハとも何ナニ通ツりく何ナニれ
天照大神アマテラスの勅ツケとさけ御田ミタとさう神カミ多オホシれバ五穀イツゴク成ナリ就ス

の嘉とまらふ神樂とのこたの樂とをやせ又是ハめ何
 ある物とありつゝん子孫繁昌の子やとのまとい尺二
 寸よといとつて申とくおめてはりつゝり飯といともめ
 一りいとも申あり 田神舞ハ面とかけ頭ハ籠篋といひ
 ちりもふ飯匙と幣と紙お徳といひ
 めて舞禮月令季秋命冢宰舉五穀之要歲帝藉之收于神
 倉註要者租賦所入之數藉田所收歸之神倉將以供樂盛
 也漢置藉田倉供樂盛置令丞即古甸師唐宋曰神倉羣邑
 每以乙未祀先農○事物紀原云今人以歲十月農功畢里
 社致酒食以報田神因相與飲樂世謂社禮始於周人之蜡
 云



大友天
 皇
 道徳
 承天訓
 鹽
 梅
 寄
 真宰羞
 無監
 撫
 才安
 能臨
 四海

天邑君

書紀○按み邑君後み村首村主ふぐんえ

田部

亦田邊

縣主

田令

稻置

郡司

以上

類聚國史

村首

民部卿

天武紀

○延喜式

稻公

蓋稻置

萬調奉司

以上

萬葉集

○一説

田

所職

東鑑

○日次紀

賀茂祭

田所六人

掌檢

名主

原康富

記等

今將名字

地名

亦田所

村長

○東鑑

也後一名

の主

バ名主

職

の畧

村長

○今

承久記

本給

村主

地

下人

莊官

室町

いづる

名と

郡方

田畷

縣吏

農率

月令

農師

農官

農正

田畷

縣吏

農率

月令

田官

食貨

稻田使者

藉田令

力田常員

惠帝

農都尉

魏志

農圃監

東都類

田正

會要○以上玉

農官

郡官

地官

以上文

稅官

過庭

租吏

致富

蕃名レニテメーステル

古語云天子之職莫大於擇相宰相之職莫大於進賢

宰相不以進賢為急而惟以貨食為心非為上為德為

下為民之意也抑人而任之の道亦難一と云

神代紀云天照大神定天邑君と云ふは

本朝農官乃始也と云ふは天書にハ蛭思とハ

司農の神々ト云ふ天性耕農の事と好之哉と田土

乃中に經グルニ蛭思乃名と負はといへり古者農

穡乃事甚重一天子輔相乃臣とハ申食國政大夫
と云ふ如き政ハ民と食ふに在の謂ふして保建大
紀之變理隍陽尊崇祭祀又經營遠邇柔懷黎黔
の人といへり一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ
農師と一公劉復よく耕種と務て遂に周室と無
やり夏禹王ハ親水土と平る田地と治め外ハ八年
云ふい我門と過て顔入り孔子稱之云禹吾無間然
矣卑官室而致力乎溝洫秦之治粟内史といひ漢
の司大司農大農令等あり治平全書ハ明太祖自田間
起注意農事即以康茂才為營田使下令といひ成

務紀曰國郡立造長縣邑置稻置公望私記云稻置今村長也蓋公田の稻倉と兼知
伊豆司也魏志倭傳欽明紀曰以葛城山田直瑞子為田令
又曰量置田部其来尚矣遣膽津檢定田部丁籍尋拜田
令為瑞子之副玉海又田使俊行字難波五郎と始應神
御宇武内宿禰とて百姓と監察せし後とあり七
道巡察使等あり皆民と敬之農と勸るの官と非るハ
な古事成務記曰定賜大縣小縣之縣主と云え縣とハ班田の言とあり後と郡と也國史延暦十七
年詔曰昔難波朝廷始置諸郡仍擇有勞補於郡領子孫相
襲永任其官政事要畧曰郡領者今之縣官也親民行化實
在斯人續紀曰天平元年任京及畿内班田司元正紀曰七
道巡察使所勘出田者宜即同隨地多少量加全輸正丁有
不足國者遂と民部主税等の卿正何員と云ふ省と交ふし
以為乘田

て平治而還文武二途コノカタとなり山寇海賊手と収ツサムりし
も鹵莽滅裂農戸日小相下シり相遠トき是と上世ニよか
せしへ視ミル子翅壤隔タのさるる孝徳紀曰大夫所使治民
能盡其治則民賴之故重其祿所以為民也ニさしは郡官ハ
必て重き職掌あり夫人の性命と立タる存ハ衣食に在て
衣食乃漁ハ百姓乃功トなり出デふ事と辨ワる其宗ムネとる司ツカサ
人ヒト方一魚人の役人何ニも年中の耕獲ヒツケトリとゆユくなく
下知シく民の疾苦と觀察ミツク寡欲ヨクありて偏頗カマフなき人柄
と擇セび農業と励精キゼンしめぬばはおれり民ヨコは邪慝ヨコシメ乃
情ココロなく年貢未進ヒナリも稀ヒナリなる早潦風霜の侵ヒナリハ蟲蝗イナムシと驅カリ

除クの役ミツケまで預ニかり置キは足ぬる一是上ニふ人公平ハ
一私シなく正道チウダウとて下シは五ニつうふもは何れど
愚オロカ痴チるる百姓ヒトとらふと其徳と感カ享キヤウとふト何れも
奸ヤ智チと出デる訟獄ソウコクを得エいトふト然サテ精出シく農と
勤チンる者モノハ褒美ホウビとせシ又引ヒくト懶惰ランダ乃者モノハ罪
科カと課カ役ニ登ノり下シ奉公ホウコウと我物ワカモノとせシ目メの前マエ杖ツエさシ乃
威オチ子チ畏オソて牙ハと動ウツけやうカれトも畢竟我物ワカモノとせシ乃
と多く公事常コトに緩ユルまりトそりかくの如ニきハ官其職
は稱カび民其業ノと女メさシふト顯宗紀曰百姓言國
中無事吏稱其官民安其業いニし王代のめニたシ

よふとハ天^ノ下^ノの万民其業^ニ安着^ルゆる^ルよふ也
其本は風俗と云ふと云ふと固^クみ^テて風俗^ニく^ル
後礼^ノ義^ノのあ^らるおの^のく^くの^の也 文武帝詔曰夫禮
者天地經義人俗^ノ銘^ノ範^也 元明帝詔曰凡為政之道以禮
為先司馬光云天子之職莫大於禮禮莫大於分分莫大於
名其所謂禮義ハ衣食^ノ足^ルる^ル萬民其分と安^ニぢ^ルより起^ル
も^の其分と安^ニハ即^チ風俗の^のふ^きよ^ク存^ルる^ル風俗の^のふ^き
きハ 皇国^ノの^のつ^くく^の乃^ハなり^きあり中山愛親卿の
歌よ^くく^の乃^ハな^りき^きなる^ル乃^ハなり^きなる^ル乃^ハなり^きなる^ル
し^きは^は 皇国ハ淫盜の俗^ノふ^きよ^ク漢書^ニ云^フは^は人

民豊樂禮義敦行の地^多る^ルと續紀^ニ載^ラる^ル神靈所扶
禮義之國と^云ハ唐玄宗乃我^ニ遺^ルる書簡^ニと^云ハ
雨森芳洲曰唐山朝鮮及我國俗為之^三國衆言^ハ三國之
智^ヲ惟我國為最勝舉國家大事係^ル於天下者而論之^乃可以
知其優劣矣朱舜水曰 本邦乃唐山^ニま^まふ^ふと^云ハ
其一^ハ百王一姓二^ハ天下の田地盡く公田也三^ハ士世
祿^ハ一^ハて俸重^ク唐山の田^ハ皆私田^ハ一^ハて士の祿^ハ唐
山^ハ為^ク多く貧^シる^ルを利^トと逐^テて其風俗鄙^吝者^多り谷
秦山曰西土之建國^以篡弒^ヲ為^ル基業^是以^テ伏羲以來更姓者
三十氏^以弒^ス書者二百事^其餘^放伐紛々不可^レ疏舉^{風俗}之

持の體或不失者有りといへども乱雜及覆の際君と棄
て恩と忘る敵は降して義と持くその往く是有り夫千
萬人今日父母と將養之の如皆おのく其困乃重恩と戴
くも在る寢てと寤くも忘るるべきハ君恩の一な
らばや林鷲峯曰夫臣之於君雖有周公之功亦是我職分
也と後世羞恥の心滴僅は尺寸乃功ととく己の力と
眼前の手柄と考ふして妾子爵禄と干ぬ褒賞と希ふと
の少かりば其弊おのきと下に流れて農夫子及び稼穡乃
道と考己の作得と貪り有ととく無と一豊熟と儲て凶
荒と称ふが如き又郡吏を承ふとのと安愉おして行義心

かゞざれば百姓と教化も承ふべき又今日田と耕し
穀と納ふと皆主君主人への奉公なりとおもはば今夫
皇國不ど魚鹽乃利島獸の肉山海の産もておんたると
のりく日出て起き井と鑿て飲む誰乃力とりおりおる
き玉運日幸子此御國人と生きて死んでる稲とは踏夕
は飽もて食も承ふは承てとまの皇神乃恩頼汝おもひ
まふたきおと承ふは承のりまよんたると色次ハいと
とく心のほろろはよこせ河邊土佐の川谷子或人の雜
話談雜せし末子生まこりかひおる困ととくぬもや交
うこれのそりろふ何と承ふと実とあつる有りて

そすゆの里はまは何とおのまは急懶て他国と羨む吾
君とは恨ましくんと實に憎むるまの甚しきやを嘗て
之はこゝの土俗は仲繩人の子守ぬまは農高ともは晨ハ
雞の初声ニハリを起さ出て各世の営と競い家の業は勤む
ふ也仲繩人オキナふどハ物静けきまはなれまかゝにけり
し時ハ月日は冥きかゝりやうに急しく物イダを早く起が
うし月と安りヤスラま着りかゝりかゝりしつる凡物
おとに油断して質純シツニブまは田舎人の習ひ也九重の雲乃
上人ハ志シは都會の地サカシまは任めふハ賢オロカまは身と律
一人と令ゲキまらるも功をなれまはとまは敏スミヤカなる邊鄙カタ井カのま

のは冬ハ朔餉アサカヒま向ふまは埋火ウグミビのまは踞踞ヒリウダケ一復ハ
夜ヨまは更スるまは徒行スガまは何事アリキもまのふまは日
成曠カシレくまは明アスカカハ日川の閑瀬カシレまは水ミヅ波踏ミヅが上
なふかげろまは此路ココの命イノチハ流ナガるまは乃原モトまは歸カエらぶまは
おのいオノイまはむムざらザラおとオトたタなナがガうウハハ紀事キジまは是コト等
ま亦禮義レイギと存タモらるやうに衣食イシヨク足タるは次ツギやうに其本ミコトと被
まはこれコレまは農桑ノウサウ法ホウはハしシふフまは存タモり農桑ノウサウと勤ツメ然シカまは
るハ即農官ノウシの職シヨク分ワケなまは其責シツむて大切タカシなまはあアとトくクん
中ナカ也ヤ或書オクシまはむムりリ筑後チクゴ柳川ヤナギガハの荒アラ花ハナ立タテ花ハナ三河
子攻コウられラレし時トキ兩年ニネン秀ヒデ才サイの威イデと争マカらる軍法イクサノホウ一ヒト子定コトサら
頃キリ抜ヒキ合アヒまはむムとトひヒくクまはしシの柳川ヤナギガハ方カタ制セイと失ウシひヒあアと

或評して曰、惣て後世の善清を行郡を其他の條のせ
んさくするも、使して二三人一具は、其の互
に申づる、合人と先立んと、おのづか
にあり、その有り、志、おのづか、非義、かく、主君の爲
に、使と、相奉、乃、肝と、最事、は、空、利、巧と、彫、ん、と、て
果、敢、乃、申、り、さ、ふ、や、う、に、人、志、れ、を、邪、魔、は、り、己、が、お
の、い、ま、さ、ふ、事、ハ、得、失、を、守、の、善、惡、を、辨、べ、下、の、痛、を、お
の、い、より、か、り、夜、と、日、に、繼、て、と、相、と、の、へ、我、し、た、事
智、者、と、も、さ、度、の、邪、欲、深、き、に、因、て、主、人、の、前、ま、て、と、此、事
ハ、新、あり、ゆ、き、す、所、ハ、某、ヶ、換、は、り、さ、り、ま、り、此、事、
能、成、り、ん、と、相、使、と、其、ヶ、換、は、り、自、身、乃、亮、明、の、と、い
の、ま、る、ハ、大、く、この、貪、欲、り、お、り、て、む、さ、あ、さ、ん、は、な
り、是、に、因、て、相、奉、乃、中、の、よ、さ、の、掃、り、又、威、云、は、る、ハ
相、奉、乃、代、官、年、家、を、お、の、諸、役、人、二、三、人、一、對、は、仕、ぬ、る
者、中、も、く、お、り、い、合、さ、り、ハ、主、の、爲、ま、立、と、せ、り、合、し、ぬ、る
ハ、得、者、り、と、い、い、る、と、ハ、一、人、守、て、そ、主、人、し、た、大、惡、性、ハ
る、と、べ、一、郡、を、行、お、り、ハ、百、姓、つ、と、善、法、を、行、お、り、ハ、役
人、つ、と、む、べ、一、惣、て、物、毎、に、迫、合、と、つ、あ、ち、と、直、る、人
ハ、な、さ、あ、と、り、家、老、と、法、師、人、ハ、主、と、下、の、官、と、執
持、さ、る、り、下、の、痛、と、志、と、ど、ん、バ、い、り、で、主、の、爲、る、ハ

る、く、益、き、無、法、と、して、得、と、附、さ、る、被、官、あ、る、目、前、の、利
ハ、勝、て、や、り、て、た、る、と、お、り、る、人、就、中、田、地、方、の、役、目、ハ
此、に、得、哉、
允、倉、子、云、人、捨、本、而、事、末、則、不、一、令、不、一、令、則、不
悔、じ、べ、
可、以、守、不、可、以、戰、人、捨、本、而、事、末、則、其、產、約、其、產、約、則、輕、流
徙、輕、流、徙、則、國、家、時、有、災、害、皆、生、遠、志、無、復、居、心、人、捨、本、而
事、末、則、好、智、好、智、則、多、詐、多、詐、則、巧、法、令、巧、法、令、則、以、是、為
非、以、非、為、是、古、先、聖、人、之、所、以、理、人、者、務、農、桑、非、徒、為、法、也
貴、其、志、也、人、農、則、樸、樸、則、易、用、易、用、則、邊、境、安、主、位、尊、少、私
議、公、法、立、其、產、複、重、流、散、歟、其、處、無、二、慮、是、天、下、氣、一、心、矣
夫、人、農、な、ま、は、樸、樸、な、れ、ハ、用、の、易、と、お、の、倍、百、姓、を、使
御、さ、る、さ、の、三、昧、と、い、お、る、夫、富、ハ、人、乃、歎、さ、る、所、而

して之と彼とよ工ハ高よ志くど況や農を後在道よ
 農稼と賤して金浪と羨ぶより人情日々に利路子趨き
 鈿銖を己子得と以務より男女其業と顛倒一鄴下門戸
 と持と心の遠風は何とぞればおのまの妻女と私窠と
 して敵て恥ぶ心の汗俗よむるものあり 先王其然と
 志るや先農耕孤重一質樸と導きと掲る衣食と事とと
 るよハあはれ風俗と維持一礼義と存る儀以て政教ハ
 存と志るふ也古語云帝王之學匪藝匪文畏天之威主徳
 為最 後鳥羽天皇の大御歌おのふおどろぐ下と踏
 こむく道何ふ女と人子志くせむ嗟乎天下の否泰ハ

上一人の心よ存つきて百姓の窮楽之よ係まら君宰を
 らむく其不どくよ従て治安の道と懋むとく豈翹一
 国一城の福もむや抑 皇國の至幸とや

大御寶 オホミタカラ 古事記○書紀ハ人民億兆衆庶百姓蒼生黔首等並
ハ訓 是蓋古は良賤に
ハ記 傳引江家次第曰為公御財御調物備進礼
於 保美多加良云言の正しく見えたるやといは

多美 タミ 即民ふり古語拾遺ニ田人ト書あるは粟夜切倍多
義 多美臣亦於美と訓益大民多り皆君子對し
君 ハ諾册より出て君に非る者臣とも民とも
耕 人同上 田子 タゴ 書紀○多く教み承り任二葉片山の
の むれハ也登ハ包丁ハ存包丁のつくりたるのなれば包

丁乃あつるべき哉やぐく包丁とのいふがごとし梅は海
 蠻志云民戸強壯可教勸者謂之田子田丁と云えり
 佃人上出雲風 賤子万葉集〇志の反もなほ鮮民とい
 乃ハ助辞あり名稱ハ非を芳雲集はり立て田つ
 らの里は多むのむとこ所ある春のおのりよとの
 民種歌は卓乃義の躬て民乃草葉民此千葉ふどよめり
 乃秋まて子世 皇州猶公民とらふがおと藻塩艸は
 大戸名 百姓 出雲風 佐久人 佐ハ田稼の大名洋
 農夫 毛詩 農民 前漢 農人 歸去 耘夫 唐書亦 田民 文説
 〇昂毗也 種戸 宋史 租戸 綱目 稅戸 糧戸 課戸
 亦田父 耕戸 經國 耕人 大蔵 佃戸 訓蒙
 以上文 耕戸 雄畧 耕人 一覽 佃戸 字會
 獻通考 耕戸 雄畧 耕人 一覽 佃戸 字會
 蕃名アツツケルマン 亦ラントマン

大戸名ハ孝徳紀ハ村首とある首と名ハ主と海小同
 紀ハ凡戸主皆以家為之と云え一戸々々の主と云稱
 一とあり 豊太商の令書とおとふる百姓と二ふ出雲風土
 記ハ天御領田の長と云り 又孝徳紀ハ五十戸為
 故ハ万葉ハ五十戸主ハ後ハ戸頭と書せり 元正紀延喜
 戸長と書り 按ハ冊府元龜云天下百姓 又蝦夷の地ハ郡主地頭と云者
 丈夫戸頭者宜各賜爵一級 又蝦夷の地ハ郡主地頭と云者
 云ハ其部落一村ハ於登奈と稱す酋長ありて事と執
 事と云於登奈ハ即大戸名とて上世の遺稱あるべし凡大
 戸名ハ某門の某と名呼て各田所ハ就て門名あり其門戸
 の主ありと大戸名頭とせり又いふ一門主あり 田主あり 豊後

清耕 織圖 土膏 初動 正春 暗野 老支 節早 課耕 辛苦 田家 惟穡 事隴 辺時 聽叱 牛聲



源氏 神 ぬき かつげ ちり ちり ちり 田子 ぬき ぬき





沖繩より壟關と云ふ
 よハ十人許づ一列
 とし前後に並立
 てのく漱と
 揚土と云く之と
 寄獄と云侍と妓
 とて歌舞せし
 めその器倦と勉
 慰に今恒吉田踊
 の式み似し
 凡の結
 繩の結
 髪男ハ序
 かしらと
 云女ハか
 らん結と
 云皆我古
 のき風よし
 此俗乃ハ
 俗乃ハお
 俗乃ハお

風土記榮花物語等にも見ゆ
 還田主三場云今之民田至數千頃者有之矣則佃客之家
 必以万數皆服後又大戸名頭と畧して名頭といひたり
 於田主之家
 其名頭より析戸いまづ別門名と有む大戸名頭の田
 と班ち授て佃ものとな子とを小百姓下作とも呼べり
 万葉に大名兒と見えたり按訓蒙字會云農俗大戸名
 稱佃戸謂治人之田者是名子小百姓と似たり
 ハ修ハ長門なり名子ハ次門あり今之と總て大戸名と
 つふとよあまり武州攝津郡をよ名主と仲屋と云
 仲屋より別つらと新屋と云新屋より別つらと生屋と
 云是沖繩より平民百姓の事と新屋といふに似て尚き
 遺名ありべ一屋といふ即右ノ戸今又士類の一姓より出

自^ナ析^{ナク}生^{ナク}て別^{ナク}ニ氏^{ナク}と称^{ナク}して名^{ナク}字^{ナク}と^{ナク}し^{ナク}ふ^{ナク}も凡^{ナク}名^{ナク}ハ郷^{ナク}より
 小^{ナク}く若^{ナク}一^{ナク}郡^{ナク}一^{ナク}郷^{ナク}の中^{ナク}より一^{ナク}名^{ナク}と分^{ナク}領^{ナク}され^{ナク}バ其^{ナク}名^{ナク}の字^{ナク}
 と取^{ナク}て自^{ナク}称^{ナク}也^{ナク}夫^{ナク}百^{ナク}姓^{ナク}とハ天下^{ナク}凡^{ナク}民^{ナク}仕^{ナク}官^{ナク}セ^{ナク}ど^{ナク}て禄^{ナク}位^{ナク}
 ちき^{ナク}め^{ナク}の^{ナク}泛^{ナク}称^{ナク}あり書^{ナク}紀^{ナク}ニ部^{ナク}曲^{ナク}と^{ナク}ら^{ナク}ふ^{ナク}と民^{ナク}と何^{ナク}と^{ナク}か
 き^{ナク}べ^{ナク}と云^{ナク}意^{ナク}も^{ナク}藩^{ナク}屏^{ナク}と^{ナク}あ^{ナク}る^{ナク}と^{ナク}さ^{ナク}せ^{ナク}る^{ナク}尾^{ナク}張^{ナク}風^{ナク}土^{ナク}記^{ナク}ニ上
 農^{ナク}中^{ナク}農^{ナク}下^{ナク}農^{ナク}の品^{ナク}目^{ナク}あり^{ナク}其^{ナク}地^{ナク}理^{ナク}の上^{ナク}中^{ナク}下^{ナク}乃^{ナク}田^{ナク}賦^{ナク}ニ就^{ナク}て
 定^{ナク}一^{ナク}あ^{ナク}る^{ナク}べ^{ナク}い^{ナク}じ^{ナク}う^{ナク}ハ西^{ナク}土^{ナク}の^{ナク}お^{ナク}と^{ナク}く^{ナク}仕^{ナク}ま^{ナク}ば^{ナク}士^{ナク}と^{ナク}なり
 仕^{ナク}へ^{ナク}ざ^{ナク}れ^{ナク}む^{ナク}農^{ナク}と^{ナク}る^{ナク}べ^{ナク}い^{ナク}ぐ^{ナク}申^{ナク}多^{ナク}ニ^{ナク}遂^{ナク}ニ^{ナク}農^{ナク}夫^{ナク}と^{ナク}呼^{ナク}て^{ナク}百^{ナク}姓^{ナク}と
 称^{ナク}や^{ナク}り^{ナク}也^{ナク}と^{ナク}い^{ナク}ふ^{ナク}を^{ナク}黎^{ナク}民^{ナク}ニ^{ナク}分^{ナク}て^{ナク}解^{ナク}さ^{ナク}る^{ナク}なり^{ナク}文武^{ナク}天
 皇^{ナク}詔^{ナク}曰^{ナク}軒^{ナク}冕^{ナク}之^{ナク}羣^{ナク}受^{ナク}代^{ナク}耕^{ナク}之^{ナク}禄^{ナク}有^{ナク}秩^{ナク}之^{ナク}類^{ナク}无^{ナク}妨^{ナク}於^{ナク}民^{ナク}農^{ナク}夫^{ナク}天

子の冕冠と正して天高御位ニ臨み農夫の耒耜と
 執て田疇と耕しぬると其體其事亦天淵とちがひを
 ま^{ナク}と^{ナク}や^{ナク}も^{ナク}其^{ナク}天^{ナク}職^{ナク}と^{ナク}奉^{ナク}て^{ナク}人^{ナク}と^{ナク}治^{ナク}め^{ナク}人^{ナク}と^{ナク}養^{ナク}ふ^{ナク}乃^{ナク}道^{ナク}の^{ナク}道^{ナク}の^{ナク}道^{ナク}の^{ナク}道^{ナク}
 ま^{ナク}り^{ナク}勞^{ナク}一^{ナク}い^{ナク}づ^{ナク}ま^{ナク}の^{ナク}供^{ナク}ひ^{ナク}と^{ナク}あ^{ナク}ら^{ナク}ん^{ナク}や^{ナク}凡^{ナク}百^{ナク}姓^{ナク}の^{ナク}色^{ナク}度^{ナク}ハ^{ナク}都^{ナク}
 類^{ナク}相^{ナク}肖^{ナク}する^{ナク}もの^{ナク}は^{ナク}乃^{ナク}人^{ナク}生^{ナク}て^{ナク}自^{ナク}然^{ナク}の^{ナク}容^{ナク}貌^{ナク}なり^{ナク}而^{ナク}して^{ナク}之^{ナク}
 二^{ナク}冠^{ナク}裳^{ナク}と^{ナク}加^{ナク}へ^{ナク}飾^{ナク}る^{ナク}ニ^{ナク}至^{ナク}て^{ナク}始^{ナク}て^{ナク}居^{ナク}養^{ナク}状^{ナク}貌^{ナク}大^{ナク}ニ^{ナク}異^{ナク}ひ^{ナク}上^{ナク}下^{ナク}
 を^{ナク}分^{ナク}て^{ナク}る^{ナク}もの^{ナク}を^{ナク}人^{ナク}作^{ナク}り^{ナク}あ^{ナク}ら^{ナク}る^{ナク}百^{ナク}姓^{ナク}囊^{ナク}曰^{ナク}凡^{ナク}百^{ナク}姓^{ナク}ハ^{ナク}質^{ナク}素^{ナク}
 實^{ナク}義^{ナク}と^{ナク}存^{ナク}と^{ナク}一^{ナク}國^{ナク}主^{ナク}の^{ナク}制^{ナク}禁^{ナク}と^{ナク}犯^{ナク}さ^{ナク}る^{ナク}と^{ナク}多^{ナク}く^{ナク}農^{ナク}業^{ナク}急^{ナク}か^{ナク}
 情^{ナク}ニ^{ナク}米^{ナク}麦^{ナク}菓^{ナク}實^{ナク}の^{ナク}生^{ナク}熟^{ナク}も^{ナク}ち^{ナク}お^{ナク}し^{ナク}と^{ナク}なる^{ナク}よ^{ナク}花^{ナク}江^{ナク}葉^{ナク}も^{ナク}
 人^{ナク}界^{ナク}の^{ナク}樂^{ナク}ハ^{ナク}若^{ナク}中^{ナク}ニ^{ナク}あり^{ナク}若^{ナク}とい^{ナク}ふ^{ナク}も^{ナク}あ^{ナク}ら^{ナク}ば^{ナク}若^{ナク}勞^{ナク}い
 よ^{ナク}い^{ナク}と^{ナク}増^{ナク}す^{ナク}若^{ナク}ハ^{ナク}人^{ナク}間^{ナク}の^{ナク}常^{ナク}任^{ナク}り^{ナク}て^{ナク}人^{ナク}界^{ナク}の^{ナク}假^{ナク}容^{ナク}あり^{ナク}と^{ナク}お
 ら^{ナク}樂^{ナク}と^{ナク}苦^{ナク}と^{ナク}捨^{ナク}ん^{ナク}と^{ナク}や^{ナク}ば^{ナク}樂^{ナク}求^{ナク}ん^{ナク}と^{ナク}せ^{ナク}ざ^{ナク}れ^{ナク}バ^{ナク}若^{ナク}お^{ナク}の^{ナク}門^{ナク}か
 ら^{ナク}樂^{ナク}と^{ナク}憂^{ナク}と^{ナク}は^{ナク}い^{ナク}て^{ナク}農^{ナク}人^{ナク}ハ^{ナク}田^{ナク}屋^{ナク}山^{ナク}家^{ナク}の^{ナク}靜^{ナク}あり^{ナク}と^{ナク}任^{ナク}り^{ナク}て
 了^{ナク}の^{ナク}氣^{ナク}質^{ナク}古^{ナク}人^{ナク}の^{ナク}風^{ナク}ニ^{ナク}似^{ナク}たり^{ナク}る^{ナク}も^{ナク}多^{ナク}く^{ナク}其^{ナク}風^{ナク}俗^{ナク}と^{ナク}失^{ナク}ふ^{ナク}も^{ナク}
 と^{ナク}か^{ナク}く^{ナク}ん^{ナク}バ^{ナク}道^{ナク}徳^{ナク}の^{ナク}君^{ナク}子^{ナク}と^{ナク}農^{ナク}家^{ナク}と^{ナク}い^{ナク}ふ^{ナク}も^{ナク}存^{ナク}ぬ^{ナク}處^{ナク}一^{ナク}は^{ナク}あ^{ナク}ら^{ナク}

和漢共廣才德智の人農民より出くべきもの多し古
歌に植て尺よ花乃とてぐぬ墨とるいんかくありおハ
いやー志うは農夫常不其天職と奉て上供養する
一日としく怠ゆ時な一若怠まば有司と下使と天子督
責嚴肅ふしく僅に免るよむあり志うれバ上天
子乃余令と奉て代くそ天職と任らゆ者孰ハ其職
と怠まそ事急るおと豈得危らん哉此道ハ國民を治
ふハ其土の入税幾許何れそ出費と之を稱くいくむく
かゆべきと量て常に驕泰とよよめ淳素よ存まてそ
天職と奉行ふべき理あり志くはば天のやいと
君宰の不職と咎て背害文臻て災下民よ及べり
魏志云
天地神

明以王為子也政
有不当則見災譴
宣化天皇詔曰食者天下之本也黄金
萬貫不可療飢白玉千箱何能救冷飢ハ君ハ農を治め
農を君と養ふものにして誠ハ天下の重宝なり
我 先王其志うふと知るや百姓人民と以大寶とを寶
ハ田力あり夫 祖宗愛とる者ハ惟民田ふして賤と
る所ハ則金玉るに渚と身よ存て六の孫謀と貽る此乃
皇祚無疆の基本にして亦以て五穀豊衍乃隴區と
るゆ多ん也 詩大雅稼穡惟寶又漢書明君貴五穀而賤金
玉○范子計然云五穀者萬民之命國之重寶
也ウの唐宋元明乃篡奪常と一國祚乃永命と保ざらハ
皆その祖宗其基本堅固なり成るよ何れども也近頃康熙

成形圖說卷之一終

御書物方

